

ブルガリア大使のメッセージ

リュボミル・トドロフ

このたび「東洋と西洋の文明対話」をテーマに、日本の東洋哲学研究所と、エレナ・イヴァン・ドゥイチエフ博士記念スラヴ・ビザンティン研究所とが合同シンポジウムを開催されます。この機会に、祝福のごあいさつをできますことを、私は大変に喜んでおります。

東洋哲学研究所は1962年、SGI（創価学会インターナショナル）会長であり、ブルガリアの古き友人である池田大作先生によって創立されました。

SGIとブルガリアとの友好関係には40年以上の歴史があります。その協力の実例として、SGIのご支

援をいただき、民音の招聘によって、1970年の「ブルガリア国立男声合唱団」、1994年の「ブルガリア国立民族合唱舞踊団〈ピリン〉」などの日本公演が実現いたしました。

また1984年には、創価大学とソフィア大学（聖クリメント・オフリドスキ大学）との間に交流協定が締結され、学生の交換留学などが実施されています。日本において創価大学はブルガリア研究の中心的機関の一つであり、優れたブルガリア学者およびスラヴ学者が活躍されています。また、ソフィア大学はブルガリアに



シンポジウムには、元駐日ブルガリア大使のトドル・ディチェフ氏、ヴェラ・ステファノヴァ元公使、またスラヴ・ビザンティン研究所のヴァシヤ・ヴェリノヴァ所長ら学者100人が出席した（登壇者は同研究所のジュロヴァ前所長）

おける日本学の基礎を作った大学であり、日本語と日本文化の優秀な専門家を育成しています。

両大学の、そしてSGIとブルガリアの実り多い協力関係が活発に発展を続けていることは、こよなくうれしいことであります。

そうした協力関係の一環として、この合同シンポジウムが、ブルガリアの最も古い大学であるソフィア大学と、スラヴ・ビザンティンの歴史と文化を研究する、ドゥイチェフ博士の名を冠したユニークな研究所の協力で、そして国立考古学博物館の支援を得て開催されることになりました。

このシンポジウムが、ソフィア大学の守護聖人である聖クリメント・オフリドスキの日である11月25日に、そして池田先生のブルガリア訪問から30周年に当たる本年に開催されることに、深い意義があると感じております。

このシンポジウムが東洋と西洋の対話と相互理解への新たな一歩となりますことを期待しております。また、伝統的に温かい友情をはぐくんでまいりました

ルガリアと日本の両国から参加された皆さま方のご健
勝とご成功をお祈り申し上げます。

(Lyubomir Todorov / 駐日ブルガリア共和国特命全権大使)